

日本の花見

動画リンク: <https://youtu.be/wWRLTELPNgc?si=zsx0t-k4GAsB1NmB>

今回は「日本の花見」を学びながら日本語を勉強しましょう。

花見は、春の日本の伝統的な文化です。
花見では桜の下にたくさんの人が集まって、みんなで食事や飲み物を楽しめます。

日本の桜は、「ソメイヨシノ」という種類の桜が、3月下旬から、4月下旬に咲きます。

桜は、開花から1週間で満開になります。
その後、雨や風がなければ、そこから1週間きれいに咲いています。
つまり、桜の花の寿命は、1年間で長くて2週間といわれています。

桜は、日本人にとって、春の象徴です。
日本人が桜を好きな理由は、桜が儂く、咲く期間が短いからです。

桜を見ることで、人生が短くも美しいことを思い起こさせてくれます。
日本人は、桜や花火といった、儂いものを美しいと感じます。

日本の伝統的な文化である花見は、平安時代(794年-1185年)に貴族が桜を見ながら歌を詠んだり、蹴鞠(けまり)をした行事が始まりで、次第に農民の間でその年の豊作を願って桜の下で宴会をするようになったといえます。

庶民が花見を楽しむようになったのは、江戸時代の寛文年間の頃からです。当時は、神社やお寺の境内に咲く、桜の観賞でした。

享保年間(1716~1736年)に、八代将軍である徳川吉宗という偉い人が、飛鳥山や隅田川堤、小金井堤などに、数千本の桜を植えて、庶民のお花見を奨励しました。

この頃から庶民は咲き誇る桜を見に繰り出し、桜の下でお弁当を食べながらお花見を楽しむようになりました。
その後、花見の慣習は江戸時代に日本全土に広まりました。

これが日本の花見という文化の始まりであり、その文化が今の日本でも続いています。

花見では、家族や仲間、会社の同僚が、桜の木のもとに敷物を敷いて座り、美しい桜を見たり、お酒を飲んだり、お弁当を食べたり、歌を歌ったりしながら、楽しい時間を過ごします。

花見で食べる食事は、ちらし寿司や巻き寿司、おにぎり、卵焼きなどがよく食べられています。ちなみに、日本語の「おにぎり」と「おむすび」はほとんど同じ意味で、その呼ばれ方には地域差が関係しているようです。

また、三食団子や桜餅、桜茶なども日本人には人気です。

桜の塩漬けで桜湯を飲んでみたり、桜のおむすびを食べると、もっと花見の文化を感じることができるかもしれません。

しかし、花見では「何を食べるか」「何を飲むか」はあまり重要ではありません。それぞれの人が好きなものを持っていき、好きなように食べ、桜や日本の春を感じて、みんなと楽しむことが大事なポイントです。

長い時間、座っているのが苦手な人は、近くのカフェでコーヒーを買って、コーヒーを片手に桜を見ながら散歩するのもいいでしょう。

花見では、昼間と少し違う幻想的な絶景を楽しむことができる「夜桜」も人気です。夜桜とは、夜に桜を鑑賞することで「夜桜見物」とも呼ばれています。

花見ができる桜の名所はたくさんありますが、人気が高い桜の名所を概要欄に日本語で書いておきますので、文章をコピーして、検索エンジンなどで画像検索してみてくださいね。

———桜の名所———

日中線しだれ桜並木(福島県)
目黒川(東京都)
河口湖畔(北岸)(山梨県)
弘前公園のソメイヨシノ(青森県)
千鳥ヶ淵公園(東京都)
福岡城址・舞鶴公園(福岡県)
あさひ舟川春の四重奏(富山県)
醍醐寺(京都府)
大阪城公園(大阪府)
美唄市東明公園(北海道)
白石川堤一目千本桜(宮城県)
海津大崎(滋賀県)
よみうりランド(東京都)
高田城址公園(新潟県)
さがみ湖リゾートプレジャーフォレスト(神奈川県)

———桜の名所———

1人でも多くの外国の方に、日本の素晴らしい文化である「花見」を知っていただき、体験してもらい、日本を感じてもらえたらとても嬉しく思います。

「日本の花見」は、いかがでしたか？

今後の動画制作に活かしますので、感想を是非コメント欄から教えて下さい。

それではまた別の動画でお会いしましょう。



Japanese-listening-SUSHI

